

2009年3月21日 日本学生オリエンテーリング選手権リレー (神奈川県南足柄市)

インカレで2位になった梶山女学園大学。メンバーにインタビュー!

## インカレ 2008 女子リレー結果

1	東北大学	3:03:20
	(江幡禎子 本間理紗 阿部ゆかり)	
2	梶山女学園大学	3:06:18
3	日本女子大学	3:11:46
4	筑波大学	3:33:22
5	相模女子大学	3:42:29
6	東京農工大学	3:52:09

## 昇り竜の勢い

昨年度の梶山女学園大学の活躍は目覚ましいものだった。昨秋、インカレロングで柴田彩名(当時2年、以下同じ)が5位と大学史上初の入賞を果たすと、3月に行われたミドルでは青山由希菜(4年)が3位、そしてリレーでも2位と、いずれも初の入賞となった。ミドルでは7人が決勝に進出したことも特筆すべきものである。

過去にはインカレで大学名を間違えられたこともあった。「梶山女学園大学」の名を全国に広めたいという先輩から引き継いできた目標は、今期、見事に達成された。リレーメンバーの花井理沙(3年)、疋田はるか(4年)、青山由希菜、コーチの村上冨子に喜びの声を聞いた。

## 初入賞を目指して

—— 秋以降の活躍を見ると優勝も狙えるのではないかと思いましたが、戦略としてはどうだったのでしょうか。

**村上**「東北大は阿部さんが一人で10分以上の貯金を作れるチーム。他の2人でそれを挽回するのは難しい。日本女子は松永さんのビハインドを何とか2人で取り戻せるかどうか。優勝争いした上で、1位または2位を取れる可能性が最も高い走順を考えました。」

**青山**「阿部さんは確実に3走だけ、松永さんは3走にはならないだろうとみていたので、3人とも確実に自分のレースをすれば、1走で6~8位につけて2走3走で少しずつ順位を上げて最後2位、という展開が最も考えられると思っていました。」

—— 梶山は実績のある柴田を含め層が厚かったですね。

**村上**「12月以降急に安定感が出て成績も伸び始めた花井を最後に選びました。柴田や水野(日香里、2年)といった有力な選手より、このレインに適性があると判断しました。」

**花井**「後輩たちもリレーを走る力は十分にありました。そんな中で選ばれたので、部員みんなに納得してもらえそうな走りをしたかったです。」



左から青山、疋田、花井

## 想定以上の展開

レースが始まると、梶山にとっては想定以上の展開となった。前日のミドル決勝で最もミス率が低かった花井は、持ち味を生かしたレース。トップから7分以上離れたが「3人とも60分でまとめること」という設定どおり、6位で中継。2走疋田は大学史上初めて1位で中継。3位青山は終盤に東北大学に逆転されたものの、見事に準優勝を決めた。

—— 金子智美コーチ、稲垣圭コーチは「3人とも大きく崩れずに走れたのは1年間取り組んできた成果。そのことを評価してあげたい」と話していました。

**花井**「スタートの登りで一番後ろにいたのですが、他の人を見たら前に行かせれば良いというコーチの指示通り、周りを観察しながら落ち着いてレースができました。自分としては思い通りのレースで、満足です。」

**青山**「いつもどおり自分のレースをするだけと思っていたのですが、阿部さんが怖くて、後半にミスしたときには焦ってしまっ。」

**疋田**「レース中にミスもしていたので、自分が1位になっているなんて知ら

なくて、驚きました。あの重圧の中で結果を残した青山さんと花井さんには感謝の気持ちでいっぱいです。」

## 来年に向けて

青山はJWOC代表、ミドルで3年連続決勝進出と、梶山女学園大学の歴史に残る活躍を見せてきた。疋田も青山と競い合いながら順調に伸びてきた。一緒に活動している名大の同期の活躍も大きな刺激になっていた。花井や柴田、水野だけでなく、他の後輩たちもそれに続く活躍を見せている。部員は3月末で36名。近年の学生界では珍しく増加傾向で、女子大では日本一の規模となった。学内でも最も活発な体育会系クラブの一つとして認知されている。

—— 4年間を振り返ってどうですか。

**青山**「楽しい思い出も辛い思い出もいろいろありますが、そのすべてがいい思い出です。節目には必ずインカレがありました。たくさんの人に支えられて幸せでした。」

**疋田**「梶山は数年前とはほんとうに変わりました。今回、先輩たちやみんなの思いを形にできてよかったです。部の活動や競技を楽しくできるのは影で頑張ってくれている人たちがいるから。後輩たちにも、そういう人がいることを忘れずに活動してほしい。私も幸せな4年間でした。」

—— 水野は「今回いっぱい感動した。今度は自分が走って優勝するんだ」と言っていました。柴田は「これは梶山の第一歩。もっと上を目指したい」と。

**花井**「この部があるのはコーチやOBOG、それに愛知県のオリエンティアの支えがあってこそ。恵まれた環境で競技できることに感謝しながら、また一年、今度は優勝を目標に頑張りたいです。」

梶山の時代は始まったばかり。これからは彼女たちの活躍に注目したい。  
(安齋秀樹)